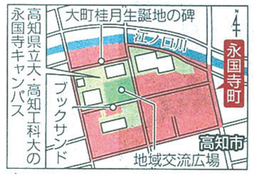
地域NOTE

ちいきのおと 218

地域の音

永国寺町（えいこくじちょう）

高知市

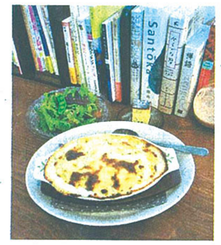


永国寺町の地名は、高知城の東北にあった永国寺に由来する。2代藩主の山内忠義が、鬼門の守護として創建。明治期に廃寺となった。住職は「寺」を2字に分け、永国土寸と名乗ったという逸話がある。1972年に北与力町、北門筋を編入。4月1日現在、208世帯317人。

自慢のイッピン

優しい味 本とともに

はちきん地鶏のグラタン



年季が入った木製のテーブルが並び、至る所にさりげなく本が置いてある。落ち着いた雰囲気のカフェ「ブックサンド」。フリーライターの久保慧菜さん(61)が「本を通して集う場を」と5年前にオープンした。

はちきん地鶏のグラタンはぐつぐつ熱々で「飽きが来ない優しい味」。良質で臭みのない地鶏の脂、こくがあって味わい深い山地酪農牛乳など、こだわりの県産食材で作られている。サラダとケーキが付いて1200円。土佐あかうしカレーのセット（1500円）もある。

「1時間でも2時間でも、ゆったりした時間を過ごしてもらいたい」。店名の由来は久保さんに聞いてみて。営業は午前11時半～午後6時半。木曜定休。

ナイショのメイショ

美文家 無類の旅・酒好き

美文で鳴らした明治・大正の文人、大町桂月（1869～1925年）は、永国寺町の出身。生誕地に石碑が立つ。

軍人を目指したが近眼のため断念し、東京帝国大学国文科に入学。在学中から能文で知られ、卒業後に発表した「花紅葉」「黄菊白菊」などの作品は一世を風靡する。文章を書くこつとして「文章は人格なり、己れを欺くなかれ」と説いた。

実生活でも見えや虚飾を嫌った。酒と旅をこよなく愛し、紀行文も多く残した。あまりの弊衣破帽ぶりに、旅先で怪しまれたこともあるとか。「一日に千里の道を行くよりも、十日に千里行くぞ楽しき」。残した名言は、時間をかけて人生を楽しむ大切さを若人たちに説いているようだ。

大学の芝生 入りづらい!?

県都の中心地に位置する高知市永国寺町。灰色の建物が並ぶ中、緑のオアシスがある。高知県立大学、高知工科大学のキャンパスにある芝生だ。その名も「地域交流広場」（2700平方㍍）。一般道との間に塀はなく、誰でも使っていいそうだが、どうにも敷居が高いようで…。

（報道部・加治屋隆文）

芝生で演奏する県大生。「最高の青春の舞台って感じ。癖になっちゃうかも」（新田祐也撮影＝写真はいずれも高知市永国寺町）

県大学長 交流拡大へ「県民の財産 利用して」

青空の下、芝生がキラキラ輝く4月。待てど暮らせど、人が来ない。通路を足早に過ぎる学生に聞くと「芝生？入らないですね」「座ったこともない」「たまに小学生が遊ぶのを見る程度かな」「え、入っていいんですか？」。

昼休み。ようやく楽器を抱えた学生が芝生への一歩を踏み出した。と見えたが、建物の影でそそくさ準備を始めた。

―ちょっとちょっと。芝生でやらないの？

「延長コードがないんです。大学に借りようと思ったけど、ないって」

―…。

記者が大学事務局に連絡すると、職員が持って来てくれた。

心地よい風の中、4人組が2曲を奏でる。ボーカルの県大文化学部3年、鷹野千帆さん(20)は「初めて芝生でやりました。ライブハウスと違って開放感抜群。めちゃくちゃ気持ちいい」と笑顔がはじけた。

県大広報誌の表紙を飾った甲田茂樹学長

芝生前のテラスで食堂のうどんをすっていた片岡由佳さん(20)は「学生はほとんど入らない。きれいなのにもったいないですよね。本当は友達とピクニックとかしたいけど。恥ずかしくて」と苦笑いした。

□　□

芝生広場が完成したのは2018年1月。当時の学長が思いを語った資料が残る。

「『垣根が低い大学』にしたい。みなさんが垣根なくキャンパスに入ってこられて、広場で休んだり、学生の動きを見たり感じて下さったり…」

現状はさみしい限り。就任して2年の甲田茂樹学長は「敷居が高い」と認め、「はらっぱ（芝生）は県民の財産。誰でも使ってください」。続けて、熱く訴える。「本学は『知の拠点』をうたうが堅い。もっと県民とつながりたいんです」

確かに、学長就任以降、大学は交流人口を増やすイベントや公開講座を数多く開いてきた。

例えば、第1土曜に開く認知症カフェ（5月は10日に開催）。大学の食堂に当事者や家族、高齢者が集まる。毎回参加するという近所の高原望さん(83)、和子さん(78)夫妻は「お茶やお菓子があり、いろんな人とお話しできて楽しい」とほほ笑む。

そして、学校に通いづらい中高生らに居場所を提供する「こうちティーンズベース」（毎週金曜）も。県大生らが子どもたちと遊んだり、散策したり。

5月25日には、広場で初の「はらっぱフェス」を開く。子どもから大人、障害の有無にかかわらず、自分らしく生きていける共生社会づくりを目指すイベントという。担当教員は「旗揚げなので、旗を作ります。絵を描き、はんこを押す。誰でも参加できるので遊びに来て」と呼びかける。

甲田学長は「大学で何かやってるな、行ってみようかなと思ってもらえる、もっとワクワクするような仕掛けをやっていきたい。はらっぱは一番の売り」と力を込めた。

思えば、ボーカルの女子学生が言ってたな。

「芝生は最高の青春の舞台でした」

認知症カフェで笑顔を見せるお年寄りら

教育研究棟からの眺め。26年度利用開始に向け、工科大の教育研究棟（中央左）の建設が進む

ちょっとチャット

大学の芝生があるところで保育園の時、自転車に乗る練習をした。父ちゃん、母ちゃんと10回以上行った。3年生の時は友達とサッカーもしたよ。オーテピアが近くて日曜市もよく行く。芋てんがカリカリでおいしい。夜は静かでぐっすり寝られるのがいい。1年生からダンスを習ってて、将来は世界一のブレイクダンサーになる。